

日総工産株式会社

【2020年3月期 第2四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）主な質疑応答】

2019年11月11日開催

当内容は全ての質疑応答の内容を記録したものではありません。また、ご理解いただきやすいように一部加筆、修正をしております。

Q1: 技能社員は働き方改革ということも含め、来年3月末までどのくらい増やしていくのですか

A1: 技能社員については、中期経営計画で説明した22年3月期8,000名を目標としていますので、今期に何名増やすという計画はございません。しかしながら、今後もこのようなトレンドで増やしていくことは間違いありませんが、働きかた改革を踏まえ、一番、力を入れていきたいことは、働いている方の80%が登用者なので彼らの育成を並行してやっていかなければ、本人の処遇を上げていくことができないので、この働く方々の状況と取引先のオーダーと教育する体制のバランスを取りながら、技能社員を増やしてまいります。

Q2: その他の事業の通期見込みが黒字ということですが、どの程度を見込んでいるのでしょうか

A2: すいとぴー東戸塚では、第2四半期より入居者増加に向け、職場スタッフの人件費やその他経費が先行して発生していますので、まず今期は通期での黒字化を目指しております。

Q3: 自動車関連は非常に受注も旺盛ということですが、下期の受注手応えは同じような状況なのでしょう。また、電子部品は非常に不透明とのことですが、例えば第3四半期ではどのくらいの回復が見えているのでしょうか。また、底打ちした状況であっても、前年並みに持っているのがまだ難しいのでしょうか、現状について教えて下さい。

A3: 自動車関係については、既に受注が内定している顧客とまだ今後の動向が現時点では不明なメーカーがあります。既に決まっているところだけを見ると、今までと同じ流れで推移することが見込まれておりますが、現在オーダーを頂いていない企業様からオーダーを頂けることとなれば、さらに強い動きとなると思います。

電子部品では、反転している企業とまだ反転の時期が見えない企業があります。電子部品全体として、これから下がるというのは非常に考えづらいですが、具体的な説明は申し上げにくい状況であります。ただ、当社の下期計画においては、既に頂いているオーダーから推察して、電子部品は増加すると見込んでおります。

Q4: 来年の働き方改革の対応で単価が上がるということですが、何故、上がるのでしょうか

A4: 働き方改革関連法の同一労働同一賃金ですが、メーカーが直接雇用している非正規の方についても基本的に社員と同一の仕事をしている場合は同一の処遇にしてください、あるいは違う仕事をしている場合でもバランスを取って下さいという考えが根本にあります。派遣の場合には、2つの対応方法があり、1つは派遣先均等均衡待遇という派遣先と同じ処遇とするか、派遣先とバランスを取る方法と私達のような人材会社の中で労使協定を結ぶという方法があり、この2つから選択することとなっております。傾向として、大手の派遣会社は労使協定方式をとることとなります。そのため、当社社員と契約社員の方と処遇のバランスを取らなければなりませんので、給与や手当について見直しを行い、お客様と単価交渉を進めております。この結果として単価は上がっていくとご理解下さい。

Q5: 5G の普及に向け、2020 年に新工場の立ち上げや新規開拓により取引先が拡大することですが、どのくらいの需要が増えるのか教えて下さい。

A5: 5G が始まる 2020 年以降、どのくらい伸びるかは現時点では読み切れていないというのが正直なところですが。現時点においては、アカウント企業の半導体メーカーからは既に以前と同水準のオーダーを計画的に頂いている一方で、明確なオーダー内容を頂けていないお客様が多いということがあります。我々としてはある程度の想定はしていますが、どのくらい増えるのかという具体的な回答は控えさせていただきます。

以上